いのちをいただき生きている

仲嶺　真弓

８月半ば、保育園に訃報がとどきました。

つばさ開園から、毎日、給食食材を配達してくれていた通称 「網ちゃん」がかねてより病気療養中のところ、帰らぬ人となられました。つばさではここ数年、ハローウィンの季節は食を考える日とし、食育の一環として網ちゃんに来てもらい魚の解体ショーを開催してきました。網ちゃんは魚屋さんです。子どもたち（主に ３・４・５ 歳児対象）の前で、50 センチはある魚と、その魚を切りさばく姿を見せてくれました。食する魚は、切り身しか知らない子どもたちにとって、とても貴重な体験でした。初回から毎年、鳥羽一郎の「兄弟船」の曲に合わせて登場する網ちゃんは、照れ隠しに冗談を交えながら、真剣に「いのちをいただいて、自分たちは生きているんだ。」ということを子どもたちに話してくれました。昨年の解体ショーも入退院の合間をぬって、来てくれました。「来年も来るって約束したさかいよ。」と言いながらも、ずっと立っていることはつらく、休憩をはさみながらの進行。けれどさばく姿は手際いい。さすがでした。時には子どもたちだけでなく、職員もさばき方を教えてもらい、無駄のない、いのちのいただき方を教えてくれました。ラスト解体ショーとなった 2019 年 10 月、網ちゃんは子どもたちがいなくなったショー終了後のホールの真ん中に立っていました。ホールの天井から吊り下げた 5 歳児が作った大漁旗を、「こんなん作ってくれたんやなぁ。」と呟きながら、目に焼き付けるように見上げていた網ちゃんの姿を思い出します。網ちゃんが子どもたちに伝え続けてくれた、「いのちをいただきながら自分たちは生きている」ということを、これからも私たちが子どもたちに伝えていきます。どうか安らかに…と願います。地域でこんな風に子どもたちを見守り、保育園を支えてくれた人がいたということを保護者のみなさんにも知ってほしいと思い、ここに書き残すことにしました。心から網ちゃんのご冥福をお祈り致します。

【　コロナ禍の園行事　】

９月に予定していた“パパクッキング＆お月見会”は、全世帯が対象となる行事なので中止することにしました。（代わりにとまでいきませんが、楽しい企画を職員が考えたので、つばさっ子裏面を見てください。）新型コロナウイルスの感染情報は落ち着く様子はなく、むしろ身近に感じられるようになり、情報が入るたびに園としてどうするのかを考える毎日です。

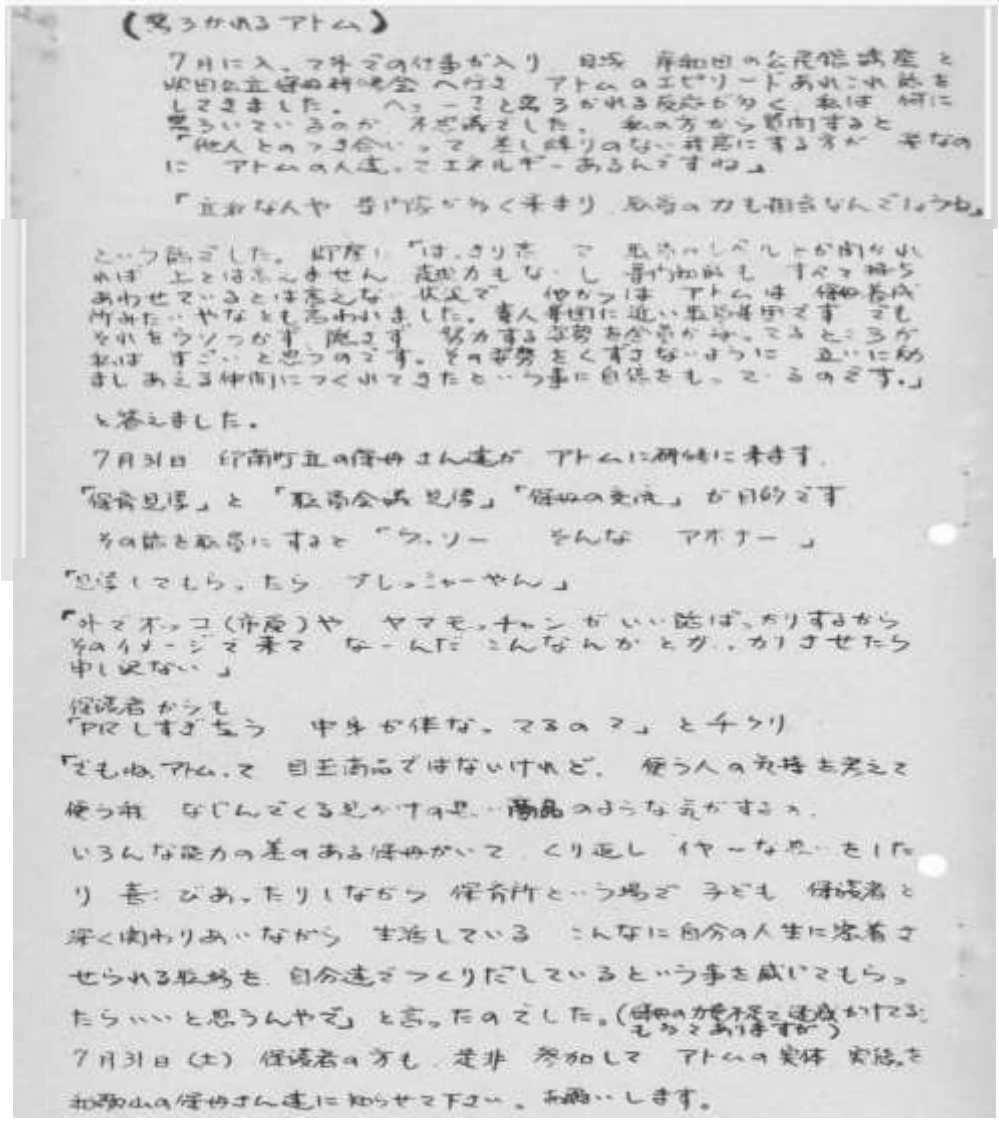
ある日、保護者からこんな質問をもらいました。「コロナ感染症が落ち着かないのに、この現状で懇談会を、なぜ続けているのですか？」　率直なこの質問が、コロナ禍の中で、保育園の役割があるということに気付かせてくれます。行事も全て無しにすることはとても簡単なことです。もちろん命より大切なものはないと思っています。けれど、その大切な命を脅かすのは、コロナウイルスだけなのだろうかと考えてしまいます。緊急事態宣言後の懇談会や日々のやり取りで聞かれた、子育てに息が詰まりそうになっている人の思いを聞いていると、わずかに風穴を開けられる人がすぐ近くにいるだけで乗り切れることもたくさんあるのだということを痛感しました。だからこそ、全てを無しにするのではなく、コロナ感染症を正しくこわがり、うまく付き合いながらできることを見つけたいのです。

懇談会をはじめ予定している園行事は、毎月ごとに、現状を踏まえながら決行するのか、中止にした方がいいのかを検討しています。決行するにしても気をつける点は何かを職員で確認しながら進めています。特に三密には気を付け、人数が多いなら、グループに分かれて行う、時間を短縮するなども視野に入れて考えています。それでも、やはり人が集まる場に行くのは不安…という方は、欠席を希望することもありだと私は思います。欠席希望だけれど、クラスの状況は知りたいので何らかの形で教えてほしい、個人懇談をもってほしいということもありです。ぜひ、自分なりの参加の仕方を考えてください。そして、どんな小さなことでもいいので、ぜひ、職員や私と直接やり取りしてください。このコロナ禍がマイナスのことばかりでなく、プラスに作用することもあります。妙案を一緒に探してもらえたらと思います。よろしくお願いします。

事務室の窓から（不定期コーナー）

事務室　一森すずえ

アトム共同福祉会では過去の発行物（アトムっ子・総会資料、出版物）を PDF 化しています。先日久しぶりにそれらに触れる機会がありました。市原現理事長（当時は所長代理）の尖った巻頭文（いずれまた紹介したいです）や仲嶺園長の入職初年度の総括文書などが目に入り思わず手を止め近くにいた職員と盛り上がっていました。どれもこれも紹介したいですが、今回は当時から共同保育所への見学者が多かった背景や職員や保護者の表情が思い浮かぶようなやり取りが書かれた巻頭を紹介します。1993 年 7 月号です。今のようなパソコンで入力されたものではなく、見ての通りすべて手書き、印刷は輪転機で B4 の用紙を 2 つ折りでした。ボリュームは今の「つばさっ子」と変わりはありません。当時、所長代理だった市原理事長が周辺地域、全国の地方にまで講演を行い、その受講者たちが全国から小さな共同保育所に見学に訪れていました。中には園を休園にしてバスをチャーターして来る園もあったと聞いています。この 7 年後ぐらいに私が保護者となった時も、見学者が絶えなかったのを覚えています。「プレッシャーや！」「アピールしすぎちゃう？」と言われている様子から、当時の職員や保護者と市原所長代理がとても近い関係だったことも伝わってきます。



《見うかれるアトム》

7月に入って外での仕事が入り　日曜　麻布田の公民館講座と
麻田公立保育所協会へ行き　アトムのエピソードあれこれ話を
してきました。　へぇーっと見うかれる反応が多く　私は　何に
見うかれているのか　不思議でした。　私の方から質問すると
「他人とのつき合いって　差し障りのない　共感にする方が　楽なの
に　アトムの人達って　エネルギーあるんですね。」

「立派な人や　学問が多く集まり　私等の力も相当なんでしょうね。」

という話でした。　即座に　「はっきりと　で　私等のレベルとか問題が
ない　上とは言えません　経験も　知識も　まだまだ　時代
あわせているとは言えない　状況で　仲間は　アトムは　保育所
所みたいなものと思われました。　素人集団に近い私等ですが　でも
それをウソつかず　隠さず　努力する姿勢を　分かってもらえる
私は　すごいと思うのです。その姿をくずさないように　互いに励
ましあえる仲間につくれたという事に自信をもっているのです。」

と答えました。

7月31日　行橋町立の保育さん達が　アトムに研修に来ます。
「保育見学」と「職員会議見学」「保育の実践」が目的です
その話を取長にすると　「うーソー　そんな　アホナー」

「思ってもらったら　プレッシャーやん」

「外でボッコ（市原）や　ヤマモッチャンがいい話ばっかりするから
そのイメージで来て　なーんだ　こんなんかと　がっかりさせたら
申し訳ない」

保護者からも
「PRしすぎちゃう　中身が伴なってるの？」と千切り

「でもね　アトムって　目玉商品ではないけれど　使う人の気持を考えて
使う所　なじんでくる良さがある思い　商品のような気がするよ。
いろんな能力の差のある保育がいて　くり返し　イヤーなこと　たくさん
喜びあったりしながら　保育所という場で　子ども　保護者と
深く関わりあいながら　生活している　こんなに自分の人生に密着させられる職場を　自分達でつくりだしているという事を感じてもらったらいいと思うんやで」と言ったのでした。（母親の力を社会で活かせる　もっとあります）

7月31日（土）　保護者の方も　是非　参加して　アトムの実体　実態を
和歌山の保育さん達に知らせて下さい。　お願いします。

ボリュームは今の「つばさっ子」と変わりはありません。

ある意味では、このようにしてアトムの実践を「アピール」し続けてきたことが小さな町の小さな団体の認可へとつながり、アトムが大切にしている保育の理念が今日まで引き継がれてきているともいえるかと思います。

最近、先人の教えで「歴史に関心を失うと未来を失っていることにも気づかない」という言葉をもらう機会がありました。なぜこの法人が誕生したか、なぜアトムの実践は注目され今もなお大学の教材となっているのか、保護者の方にも知ってほしいし、職員も本当にその保育は引き継がれているのか、改めてどういうところで働いているのかを考える機会があればよいなと思っています。